

カンバンボード

ガイダンス — チームのタスクを見える化する —

活動のメンバー向けに、タスクをカードにして貼り出すだけの
「非常に簡易な進捗管理」を案内します。

2026 年 8 月

著作者：狩野英司（立命館アジア太平洋大学）

Campus-ToolBox 実践ガイド

本資料は「キャンパス・ツールボックス ご利用条件」に準拠してご利用ください。（<https://campus.gov-toolbox.jp/about#terms>）



目次

1. カンバンボードとは
2. なぜカンバンボードか
3. ボードの作り方（見本）
4. 運用の3つのルール
5. コラム:Miroで作る
6. 慣れてきたら（発展と資料案内）

1. カンバンボードとは

タスクをカードにして、3つの列に貼り出すだけの進捗管理

タスクを1件1枚のカードにして、To Do(これからやる)/In Progress(進行中)/Done(完了)の3列に貼り出す道具です。カードを動かすだけで、チーム全員が全作業の状態をいつでも見られます。

透明化

全作業の状態が、誰にでもひと目で見える

オープン

板は全員のもの。誰でも見て、自分のカードを動かす

情報共有

進捗を尋ねる・報告するやりとりの多くが不要になる

道具は、壁と付箋でも、Miroなどのオンラインホワイトボードでも。準備は数分で終わります。

2. なぜカンバンボードか

「あいまいだと事故が起きる、厳密にやると続かない」の間を突く

進捗管理があいまいだと…

同じ作業に2人が手を付ける。誰も手を付けていない作業が本番直前に見つかる。「やってます」のまま止まる

きちんと管理しようとする…

進捗表の更新そのものが仕事になり、日々の活動と並行して続かない

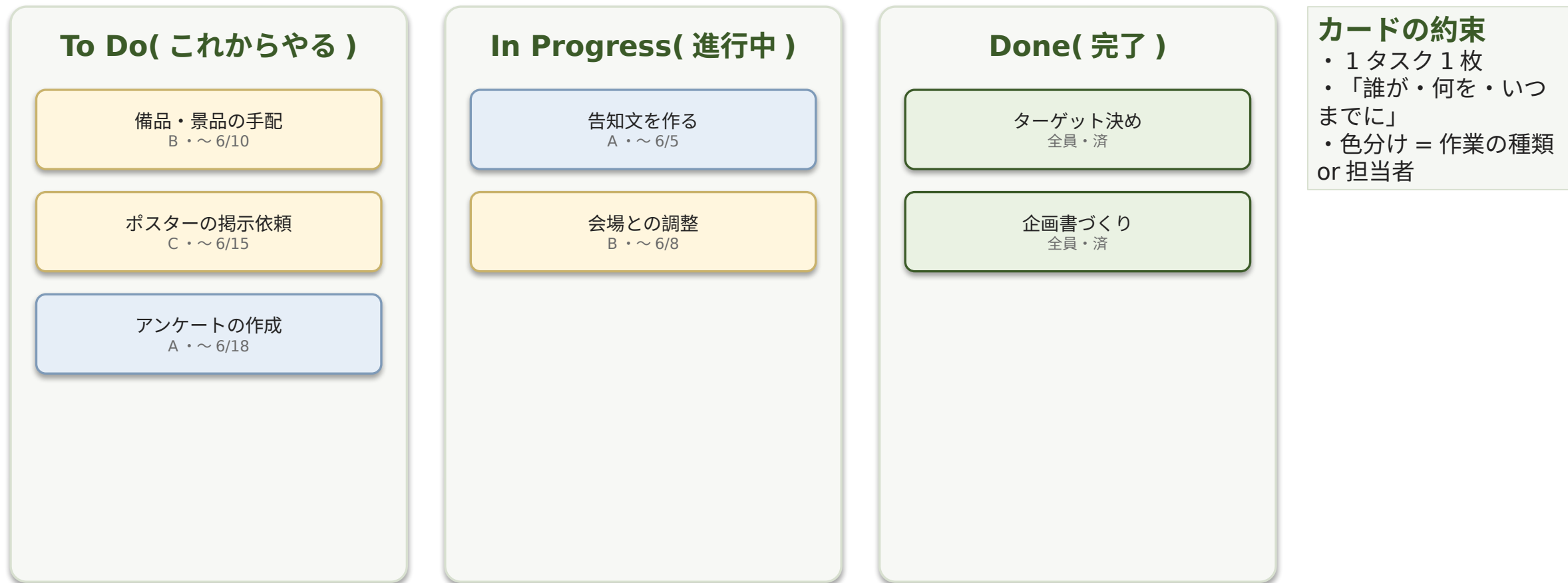


カンバンボードは「貼るだけ」の進捗管理

カードを3列に貼って動かすだけ。オープンな板が1枚あるだけで、状態の共有が自然に起き、重複と放置が減る

3. ボードの作り方（見本）

列を3つ引き、1タスク1カードで貼る。例：イベント出展チーム



カードが右の列へ流れていくのが「進んでいる」状態。止まっているカードはひと目でわかります。

4. 運用の 3 つのルール

本人が動かす

カードを動かすのは担当者本人。人のカードを勝手に動かさないことが、ボードへの信頼になる

定例打合せの都度、更新

打合せの冒頭に全員で自分のカードを動かし、ボードを見ながら進捗確認。更新を「会議とセット」にすると続く

進行中を絞る

In Progress は 1 人 1 ～ 2 枚まで。あれもこれも「進行中」にすると、実際にはどれも進まない

5. コラム :Miro で作る

メンバーが同じ場所に集まりにくいチームはオンラインで

Miro は、広い作業スペースを複数人で同時に編集できるオンラインホワイトボードです。一定の範囲までは無料で使えます。授業（プロジェクト管理特論）でも、各チームが Miro 上のボードで進捗を共有しています。

1. ボードを作る

アカウントを作成し、新しいボードを開く

2. 列を作る

線やフレームで 3 つの列 (To Do/In Progress/Done) を描く

3. 付箋を置く

1 タスク 1 枚。「誰が・何を・いつまでに」を書く

4. リンクを共有

共有リンクをチームに配り、打合せでは画面共有で全員で見る

6. 慣れてきたら

列はチームの実情に合わせて育てられます

Backlog 列を足す (4 列運用)

左端に「いつかやる」の Backlog 列を追加。思いつきをまず貯め、着手を決めたものだけ To Do へ。授業でもこの 4 列で運用

ふりかえりとつなぐ

節目に Done 列のカードを眺めながらふりかえりを行う。完了カードの束は、活動の記録と引継資料の素材になる

あわせて使う資料：ワークシート / 詳細説明 (PowerPoint 形式)

ボードの立ち上げ手順 (壁で作る場合 / Miro で作る場合)、カードの書き方の見本、運用チェックリストを収録しています。